



新入社員に求めた3つの「意」

～VE精神の端緒として～

鹿島建設(株)

代表取締役社長

梅田 貞夫

日本経済はかつてないほどの困難な時代を迎えております。バブル崩壊後の90年代は「失われた10年」といわれる通り、社会、経済のあらゆるシステムが疲労の限界に達し、低迷を続けることが余儀なくされました。さらに21世紀を迎えてその動きに拍車がかかるとともに、様々な分野においてドラスチックな再編や淘汰が次々と起こってきております。こうした動きは10年前、いや3年前ですら昨今のように過酷なものになるとは想像できなかったかもしれません。そしてこの改革の痛みの中で、デフレ経済は一層深刻化し、グローバル化の進展とともに熾烈な競争はさらに激化しております。あらゆる既存の枠組みが激変するこのメガコンペティションの時代においては、その変化の波を見据えて、果敢な自己改革のもとに迅速かつ柔軟に対応できない企業は、一瞬にして退場を命じられる運命にあります。

こうした動きは建設業界においても全く同様であります。公共事業の抑制、民間設備投資の低迷など、建設市場の量的拡大は望めない一方で、業界全体が、負の遺産の処理に迫られる問題業種の一つと見られるなど、極めて厳しい状況下にあることは事実であります。しかし、視点を変えれば、都市再生、環境開発分野などへの社会的ニーズは高まり、そして新しいビジネスチャンスも次々と生まれつつあって、建設業の社会的な価値は質的に変化しつつもその重要性が下がることはないと考えております。

当社は創業以来160有余年、諸先輩方の不屈の精神と時代の先を読み取る進取の姿勢によって幾多の苦難を超え、現在に至っております。また、ここ数年は21世紀に勝ち残る企業体質の強化のために抜本的な経営改革に取り組んでおります。

さて、このような状況を踏まえ、本年度の入社式において新入社員に求めた、「熱意」「誠意」「創意」の3つの「意」、つまり意識についてのメッセージをここに紹介させていただきます。

①「熱意」について、何事をも直視して「やってみよう」という熱意がなければ始まらないことは自明の理であります。特に皆さんは若さの特権として失敗も許されるのですから、臆することなく何事にも積極果敢に真正面から挑戦していく熱意が欲しいのです。

②「誠意」について、皆さんは組織の一員となり、基本的にはチームプレーのなかで仕事をしていかなければなりません。自分が熱意を持っていても、先輩や同僚、あるいは得意先等との関係において誠実さを欠き一人よがりの行動をとることは許されません。一度合意して定められたことについては誠心誠意努力することが必要です。

③「創意」について、これは「創意工夫」の「創意」であり、創造するつまりcreateしていかうという強い意志であります。困難な時代においては、その様々な困難を切り拓き、新しい道を「創り出していく」という創意を持った人材こそ求められます。このためには常に問題意識を持って、自分ならどうするか、どうあるべきかを自ら考え、積極的に自分の意見を表していくことが大切です。

以上のことは、VEの精神や基本理念に通じる内容と思っております。

日本経済も建設業界も未曾有の困難なときにあります。しかし、逆にピンチの時にこそ、実力が問われているともいえます。このような時こそ、全社一丸となって更なる技術革新とVEの実践が肝要であると考えている次第であります。

(筆者は本会理事)